体研究懇談会である。

(塩谷 繁雄)

8. 磁性材料研究会

8.1 設 立

本研究会は、昭和60年(1985年)6月21日に発会式が早稲田大学理工学部でもたれ、笛木和雄氏(東大工)が主査に選任された。

設立の経過は、ちょうどこの頃が電気化学協会としては周辺分野への会員拡大等を研究・技術懇談会増設を中心に行った時期であり、磁性材料に関しては本会では武井 武氏からの古い伝統があるにもかかわらず、関連会員が少ないため、当時副会長であった笛木和雄氏から逢坂哲彌(早大)と山崎陽太郎(東工大)の両氏に磁性材料に関連した研究会設立の可能性の打診があったのがきっかけである。逢坂氏と山崎氏は磁性材料開発研究が活発であり、特に化学をベースにした開発研究者が企業等に多くいるのに反して、材料の立場から研究討論を行う場が少ないことを留意し、そのような場を提供できるように、まず小規模な材料面からの研究討論ができる研究・技術懇談会設立を意図して磁性材料研究会(マグネミーティング)を設立した。最初の発会式はこの分野の代表的な二人の方の講演会をもって開始した。“磁性記録媒体の現状”北本達治(富士写真フィルム)、“磁性体入門”太田恵造(青山学院大)。

会員は企業側で開発研究が盛んなため、企業会員を多く集め、個人会員として大学側で関心を持つ研究者を入会させて交流をもつ形で構成した。幹事として逢坂哲彌(早大理工)、山崎陽太郎(東工大総合理工)、奥野 光(千葉大工)、岸 富也(慶大理工)、水崎純一郎(東大工)の諸氏が当たった。発会式には62名の参加者を得た。

8.2 活 動

活動としては、昭和60年より年3回研究会を行う。そのうちの1回は泊まり

込み研究会として、今日まで研究会が持たれている。最近では、表面技術協会・電子材料表面処理部会と合同で研究会を行い、大学、研究所および会社の見学会も兼ねている。事務局は逢坂研(早大)が行っている関係から逢坂哲彌氏が代表幹事となり、また平成4年、幹事は以下のように若手を補強し、この中の大学中心のメンバーが主体となって、文部省科研費総合研究(A)「記録用高機能磁性材料の設計と評価」(代表、逢坂哲彌)を平成3,4年度実施している。

主査：笛木和雄(東理大理工)、代表幹事：逢坂哲彌(早大理工)、幹事：山崎陽太郎(東工大総合理工)、高橋 研(東北大工)、星 陽一(東京工芸大)、奥野 光(筑波大)、青柿良一(能開大)、後藤文男(日本電気)、篠原正喜(富士通研)、成宮義和(TDK)、畑 邦夫(富士通)、富永 滋(ユニテック)、上林博文(東ソー)

(笛木和雄、逢坂哲彌)

合同例会出席者(山梨、平成4年7月)